

Step 5

体験実施

当日は事前の打合せに基づいて、安全を心がけながら楽しく体験を実施します。また、一方的に教えるのではなく、体験者から学ぶ姿勢も大切にしましょう。

POINT

あいさつ と 自己紹介

- 家族や協力者の名前を紹介するとき、「○○○先生」というと、子どもたちは受け入れやすい。
- 気温の高い日や日射しの強い日は、特に長い話をしない。
- 農場内での危険な場所、禁止事項、トイレや休憩場所を分かりやすく指示する。

説明時

- 農業の専門用語は、子どもに分かるようやさしい言葉に置き換える。
- 子どもたちを縦に整列させるのではなく、円形になると全員が集中しやすい。
- 具体的な数字や、たとえ話を織り交ぜて分かりやすく話す。クイズなどで興味をひく。

心構え

- 体験内容が「競争ではない」ことを認識させ、丁寧な作業を心がけさせる。
- 「指導する」のではなく、「気づかせる」ことを促す。
- 間違ったこと、してはいけないことに対しては、直ちに注意する。
- 体験が終わり、バスなどで帰るときは、全員で手を振って最後まで見送る。

その他

- 体験手順をマニュアル化し、協力者も含めてスムーズな行動を心がける。
- 引率者（教員）と指導・誘導など役割を分担する。
- 体調不良者の有無を確認する。

受入れ時の マナー

農業体験の受入れは、食の大切さを伝え、農業・農村への理解を深めることを目的としています。以下のような言動に注意しましょう。

- 他の農業者が行っている農法や取組を批判しない。
- 自身の取組や考え方だけが正しいということを言わない。
- 体験者の消費行動が間違っているという批判的なことは言わず、相互の立場を理解しながら、農業や農村への理解が深められるように発言する。



傷病に関する注意点

	注意点	体験内容
ケガ	刃物を扱うときは人に向けてない。 裸足で危険な場所への立ち入りを制限する。 施設内で頭などをぶつけないよう注意する。	稲刈り、野菜の収穫（アスパラガス、かぼちゃなど） 田植え 牛舎作業・見学、施設・機械見学
薬害	消毒済みの種子、苗を触った手は必ず洗わせる。	播種、定植、移植
炎症	水生昆虫を触った手は必ず洗わせる。	自然観察、体験後の自由時間
日射病・熱中症	帽子の着用、水分補給、長時間の体験に注意する。	路地作業、自然体験
食中毒	体験後は必ず手を洗わせる。 家畜を触った後は消毒、手洗いを実施する。 収穫後、生で食べてはいけない農作物がある場合は食べないよう指導する。 食品衛生法上、加工体験は専用施設の利用が望ましい。 昼食持参の場合、温度管理に注意する。	全体験 家畜、ペット関係 じゃがいも、大豆など 加工、調理全般
伝染病等	家畜伝染病等発生時は入場を禁止する。 異常家畜がいるときは隔離する。	家畜関係
アレルギー	事前打合せに基づき、適切に対応する。	全体験

Step 6

反省／振り返り

受入方法の見直し、改善を通じて、体験者、受入農業者双方の目的達成度を高められるよう、レベルアップを目指して次回からの受入れに生かしましょう。

POINT

感想文を入手する

体験者の満足度（評価）を示す感想文、作文を学校から入手するほか、アンケートを行い、「何が楽しかったか」「農業をどう捉えたか」など、改善のヒントを探ります。

関係者と意見交換を行う

学校や旅行代理店、サポーターなど、体験にかかわった人々と意見交換を行い、互いの反省点（スケジュール、内容など）を明らかにします。また、家族や協力者、受入組織内でも、人員体制、用具、指導方針などを振り返って反省点を検討します。

農業者の満足 \neq 体験者の満足

体験内容が農業者の自己満足で終わらないようにする。

要望・クレーム評価 \rightarrow 改善のヒント

体験者からの「声」を生かして、次の受入れをよりよいものに。



Q
A

農業体験を受け入れるメリットは何ですか？

農業体験は食べ物が作られる過程を知ることにより、食のあり方について考えてもらう機会となるほか、農村に来て地域の状況を知ってもらい、農業について農業者の思いを伝えていく絶好のチャンスです。また、農産物の新鮮さやおいしさを知り、道産農産物に愛着を持ってもらうことは、将来の農業・農村全体の活性化につながります。

Q
A

体験希望が繁忙期に重なりますが、どう対応したらよいでしょう？

- 体験の手順をマニュアル化し、スムーズな体験を心がける。
- 事前に十分な打合せ、段取りを行う。
- 体験者に適切な説明を行い、遅滞なく体験が行えるようにする。
- 地域の人たちや関係機関などに協力を依頼する。

Q
A

受入体制が整っていない（一度に大人数、障がい者など）場合、どう対応したらよいでしょう？

- 協力者を得られるかどうか検討し、困難なら受け入れない。
- 安全を確保するために必要な障がい者向け設備を確認し、受入可能か検討する。
- 受入れが困難な場合は、対応可能な別の農業者があれば紹介する。

Q
A

雨天時などに体験内容を変更する際、気をつけることは何ですか？

雨天時の対応については、申込者と事前に打ち合わせをしておきます。ハウスや倉庫内で行う作業は大人数に対応しにくいいため、近隣農家と協力体制を築いておくとういでしょう。

Q
A

災害や不幸などで急に体験を受け入れることができなくなった場合、どうしたらよいでしょう？

早急に体験申込者に連絡し、対応を協議します。他の農業者や組織と連絡をとり、受入れが可能なら紹介しましょう。また、日程の変更が可能かどうか意向を確認します。いずれの場合も誠意をもった対応をすることが大切です。

Q
A

「食育ファーム」に登録したいと考えていますが、申込みに必要な要件はありますか？

北海道で実施している「ふれあいファーム」に登録されている農場で、以下の要件を満たす農場が申込み可能です。詳しくは54ページをご参照ください。

- 食育に関する農業体験メニューを提供できること。
- 適切な保険への加入など安全対策に十分配慮していること。
- 情熱をもって、継続的に受入れを行うことができること。